

作品タイトル	共感コミュニティ 真駒内
--------	--------------

<提案の趣旨>

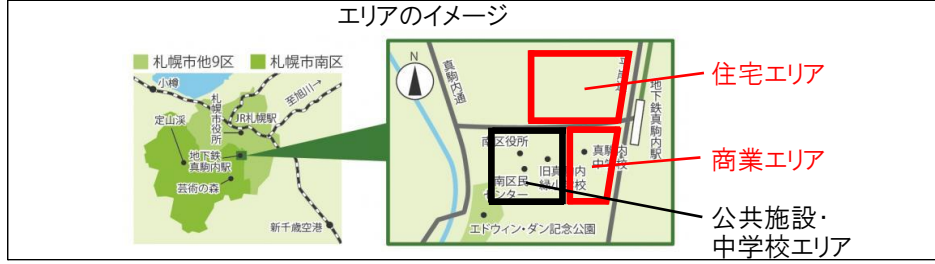
【真駒内地区の課題】

①高齢化および人口減少、②市有施設(公団を含む)の老朽化、③商業施設不足、④駅前拠点性の欠如

【真駒内地区の個性】

①豊かな自然環境、②市内有数の文教地区、③芸術の森、札幌市立大学等の芸術・学術施設を有する
 ④真駒内公園等のスポーツ施設、憩いの場を有する、⑤公団等住宅スペースを有する
 ⑥定山溪温泉等の観光地を有する、⑦エネルギーネットワークの整備

上記内容を踏まえた上で、高齢化に対する視点を持ちながらも、子育て世代や若者が、積極的に「行きたいまち」「住みたいまち」と共感するまちづくりが、人口減を根本的に解消する最も重要な要素ではないか。そのためには、全国のどこにもない、「真駒内」というまちの個性と調和した「賑わい」の創出にスポットを当て、商業エリア・住宅エリアからの提案を行いたい。



■商業エリア・・・共感コミュニティ型商業施設

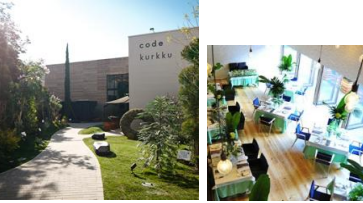
「賑わい」創出(雇用創出を含む)には、商業施設が必要であると考え、「もの売る」だけの商業はもう古く、そこに住む人々に愛され、そこに住む人々と共につくりあげる「共感コミュニティ型商業施設」でなくてはならない。真駒内の個性である「豊かな自然環境」、「高い文化水準」を中核とし、自然・文化・商業が調和した複合型商業施設を建設すべきではないだろうか。

例えば、「函館 蔦屋書店」は、木の温もりを感じる館内で、本を中心としながら、音楽・雑貨・コスメ・生花・食・知育玩具等、高感度で豊かな生活を提案し、地域住民に向けた文化・教育イベントにも力を注いでいる。大人向けのイベントはもちろん、子供に向けた読み聞かせや音楽教室等を開催し、地域住民との強い繋がりを感じさせる。通常の図書館等にはない、新しい文化の場が体现されており、こうした施設があれば、「周辺に住みたい」「子育てをしたい」と思わせるのに十分な魅力を感じる。



参考:函館 蔦屋書店

また、「代々木ヴィレッジ」も、世界的なクリエイターの協業により生まれた複合型商業施設だが、緑豊かでゆとりある快適な空間で、「衣・食・住」をトータルに提案し、大人の社交場・文化発信基地となっている。



参考:代々木ヴィレッジ

これらに共通するのは、地域住民と共に、文化、コミュニティをつくり上げ、共感する全ての人々を日本中から呼び込んでいる点にある。こうした事例を参考に、南区の個性と結びつけた真駒内独自のコミュニティ型施設をつくり、世界的な注目度が高まる道産食材の「地産地消」要素を新たに加えれば、国内だけではなく、世界に向けたアピールも可能だろう。

■住宅エリア・・・自然調和・エコ型リノベーション

商業施設を駅直結とし、圧倒的なポジションを築くと同時に、周辺の住宅環境整備が、人口流入に不可欠である。真駒内には、老朽化した公団が多数あり、スクラップ&ビルドの発想から、解体・新設するのの一つだが、環境負荷低減の観点から、リノベーションも併せて提案したい。



例えば、幅広い年齢層から支持される「無印良品」の団地リノベーションプロジェクト「MUJI×UR」等の活用による公団再生はどうだろう。自然と調和し、親しみやすい普遍的なデザインとエコの視点から、多くの人々の共感を得られ、「住みたいまち」への一助となると考える。



参考:無印良品住宅の例

また、現在の低層の公団を、一部高層化することで余剰地が得られれば、そこに滞在型のホテルやオーベルジュ、高級分譲マンション等の建設が可能となる。さらに、ランニングコースやドッグランを併設した、緑あふれる憩いの場を整備すれば、真駒内公園と連動した「健康都市 真駒内」のブランディングにも貢献するだろう。

※商業・住宅エリアともに、駒岡清掃工場の排熱利用により、環境負荷の低減を目指します。

自然と調和し、環境に優しく、文化的な、未来志向型「共感コミュニティ 真駒内」が、新たな住民や観光客の流入を促すと同時に、「北海道のコミュニティ・ハブ」として、芸術・学術・観光と連動することにより、「世界と南区」を結び、南区全体のサステナブルな発展に貢献します。